

令和3年度 心に響く人生の達人セミナー

1.目的 実社会の第一線で活躍されている方から、経験を交えた実社会の厳しさ等についての話をし
ていただくことにより、生徒に21世紀をたくましく生き抜く力を身につけさせるとともに、
人生観や倫理観、職業観の醸成に寄与する。

2.日時 令和3年9月24日(金) 14:30 ~ 15:50

3.講師 谷山 敦氏(本校2回生)(県央振興局 中央家畜保健衛所防疫課長)

4.演題 「獣医師の仕事について(県職員獣医師の仕事)」

5.内容

- 獣医師の仕事内容には主に診療獣医師・畜産業性・公衆衛生・研究機関とあるが、今回は研究面についてお話いただいた。
- 近年猛威をふるう新型コロナウイルスについて、豚や鶏、牛などへの感染報告はない。しかし豚や鶏、牛にも急性伝染病がある。特に家畜伝染病(法定伝染病)に指定されているものは、殺処分等の強力な措置がなされている。
- これまで家畜生産のための繁殖技術向上のために様々な研究がされており、1958年の人工授精技術の開発に始め、近年では雌雄産み分け精液選別技術や核移植技術の開発(クローン)も行われている。
- 谷山さんの博士論文では牛胚移植における受胎率の向上について研究されており、質の低い受精卵に手を加えることで受胎率が向上することが分かった。
- 長崎県では獣医師として働きたい高校生に向けて獣医師系大学(私立大学)への推薦や合格後の就学資金の貸与、大学卒業後特定の就業先で獣医師として10年間勤務した場合に就学資金の全額免除などの支援があるためぜひ目指してほしい。
- また、自分が役に立っているという自覚が仕事のやりがいにつながるため、その気持ちを大事にしてほしい。
- 講演後、生徒から、「どうして獣医学科に進学しようと思ったのか」「どうして博士号を取得するために50歳の時に博士論文を書こうと思ったのか」など進路や生き方に関する質問がみられ、谷山さんから「大きな動物に興味があったため」「農家の人たちから感謝されたので、研究結果を文章に残しておくためである」と、質問に丁寧に答えていただいた。

